

教科	農業	科目	野菜	単位数	2 単位	学年	2 年	コース	野菜専攻
使用教科書		野菜(実教出版)		使用副教材等		ワークシート、実習記録簿			

目標	日本で栽培されている野菜について、原産地や来歴、生産と消費の特徴について学び、長い歴史の中で野菜が私たちの生活を豊かにしてきていることを理解させ、また植物としての分類法や、共通する栽培管理、病害虫、生理・生態的特性があることを理解させる。また、高知県が全国に誇る施設栽培、環境制御技術についても学習し、高知県の農業に関する理解を深める。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	野菜に関する基本的な知識や技術を身につけ、課題解決に役立てることができる。また実習の中で得た知識や技術を実習記録簿を詳細に記入し、振り返りを行い、学びを深めていくことができる。	野菜生産の計画と工程管理・評価および栽培の特性、管理に関する課題を解決し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	野菜生産の計画と工程管理について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト パフォーマンステスト ワークシート 実習記録簿 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実習状況の観察 ワークシート 実習記録簿 実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 実習記録簿 座学、実習時の観察 ループリック

担当者からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 座学と実習とのつながりを意識して授業に取り組んでください。 実習では特に時間厳守を意識し、服装や身だしなみを正しく整えて授業に臨むようにしてください。 座学および実習では、自ら行動し(自主性)、仲間と協力して(協働)、片付けまで集中して(責任感)取り組むようにしてください。 実習で学んだ内容は、実習記録簿に詳しく記入して期限に遅れないように出すことを心掛けてください。
-------------	--

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準	
1	4 5 7	○授業オリエンテーション (授業の進め方や実習に関する諸注意、評価の仕方などを学ぶ)	(知):知識・技術 (思):思考・判断・表現 (態):主体的に学習に取り組む態度	
			座学	実験・実習
		○野菜の種類と特徴 植物学上の分類が野菜を栽培するうえでどのような役割を果たしているか理解する	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の種類と特徴、その利用について理解できている。(知) 野菜の栽培と気候や土地の特性などの環境を関連付けて考えることができる。(思) 	
		○野菜栽培と生産動向 就農者の高齢化や他産業への流出、後継者不足などで全国的に問題となっている遊休地や耕作放棄地の増加について理解し、そうした中で施設栽培への参入について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 野菜栽培と作付面積、農業就業人口推移について理解することができる。(知) 農業の抱える課題について考え、現在の野菜生産の動向と関連付けて考えることができる(思) 	
		○野菜の安全性 安心・安全を求める消費者ニーズに応じて、国が定めている規制はどのようなものがあるか、またそれに沿った野菜の生産はどのように行われているか(GAP認証など)について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> GAP認証に向けた取り組みが安心安全につながる仕組みについて理解することができる。(知) 有機栽培と普通栽培、特別栽培の違いについて理解することができる。(知) 	<ul style="list-style-type: none"> 各圃場においてリスク評価を行い、改善点と対策について考える。(思) アグリサイエンス科の堆肥の投入等が作物に与える影響について調査する。(思)

2	9 1 2	<p>○野菜の生育と生理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校における野菜の生育の特徴 ・根、茎、葉の成長について 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成長と生殖成長の特徴を理解し、それぞれに対応した適切な管理が必要なことを理解できる(知) ・野菜の種類によって根、茎、葉の成長に特徴があることを理解できる(知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各野菜の生育の特徴を理解するための生育調査を行い、野菜によって生育に特徴があることを理解する(知・思)
		<p>○栽培環境の調節技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培における環境調節について ・高知県の推し進めるIoTについて ・人工環境における栽培技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培環境が野菜におよぼす影響について理解し、その調節方法について理解することができる(知) ・高知県がIoT技術において全国でもトップレベルにあることを理解できる(知) ・高知県の特徴である施設栽培の特徴と経営的な位置づけについて理解できる(知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・eye-farm-cloudやSAWACHIといったクラウドデータから、生育と環境制御との相関関係について粘り強く考えることができる(思・態)
		<p>○野菜の流通と経営改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の流通と鮮度保持 ・加工、業務用野菜 ・野菜生産の経営改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜生産における自然的適地と社会的適地について理解できる(知) ・適地適作について理解できる(知) ・野菜栽培における労働時間や生産費などの課題や改善点について考えることができる(思) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に園芸システム科で行っている作業や実習時間が収益にどのような影響を与えているかを調査し、収支のバランスについて考えることができる(思)
3	1 3	<p>○野菜の育苗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗の目的と方法 ・育苗技術の実際と応用 ・園芸システム科での野菜育苗の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗の大切さについて理解することができる(知) ・野菜の種類や栽培時期によって育苗の方法が異なることを理解することができる(知) ・どのような育苗方法が各野菜に最も有効であるか考察することができる(思) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイカ、メロン、イチゴ等、春作に向けた野菜の育苗を実際に行うための技術を身に付けている(知) ・播種～定植までの栽培管理技術を身に付けている(知) ・育苗管理を丁寧に粘り強く行うことができる(態)